

弥陀ヶ原の火山活動解説資料（令和7年10月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

地獄谷周辺の地震活動は低調で、火山活動によるとみられる地殻変動も認められませんが、地獄谷では活発な熱活動が続いていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。また、地獄谷付近では火山ガスに注意が必要です。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図1、図2、図4-①）

芦峠監視カメラ（弥陀ヶ原の西約18km）による観測では、地獄谷からの噴気の高さは200m以下で経過しました。

7日から10日にかけて現地調査を実施しました。地獄谷では紺屋地獄や百姓地獄などで引き続き活発な噴気活動がみられました。赤外熱映像装置による観測では、噴気地帯に対応する高温領域が引き続き確認され、2024年と比較してその分布に大きな変化はありませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図3、図4-②）

今期間、地獄谷周辺の地震活動は、低調に経過しました。

31日に地獄谷の南3km付近を震源とする地震が一時的に増加しました。この地震活動の前後で、弥陀ヶ原の想定火口域付近浅部での地震活動や噴気活動に特段の変化は認められていません。また、火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図4-③～⑥、図5）

地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められません。



図1 弥陀ヶ原 地獄谷からの噴気の状況（橙丸）（10月2日、芦峠監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧できます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和7年11月分）は令和7年12月8日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、名古屋大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『電子地形図（タイル）』を使用しています。

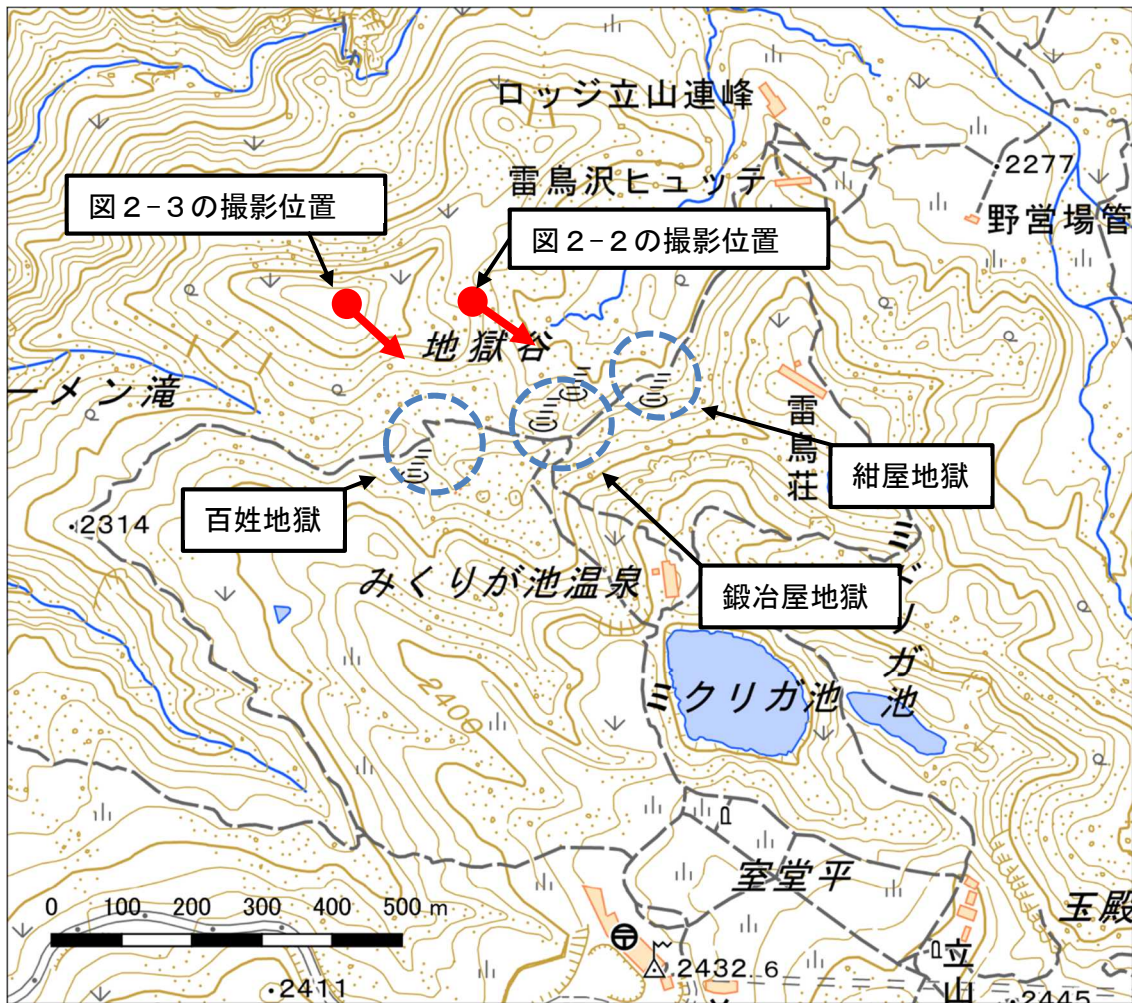


図2-1 弥陀ヶ原 目視・熱観測の撮影位置
撮影位置及び撮影方向を赤矢印で示しています。

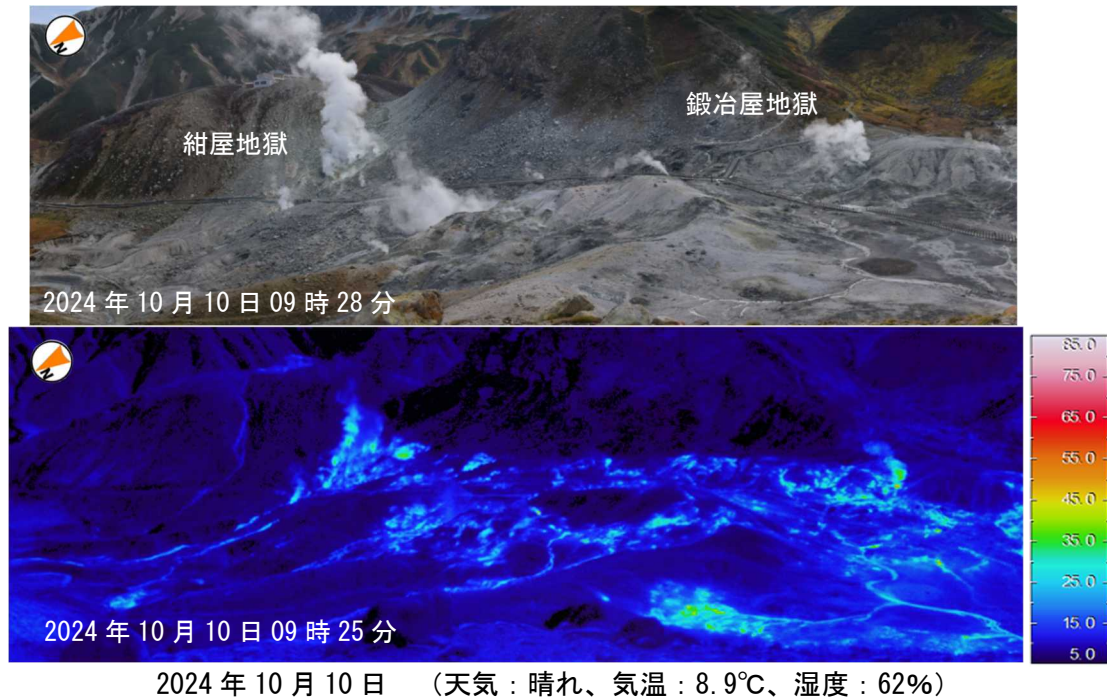
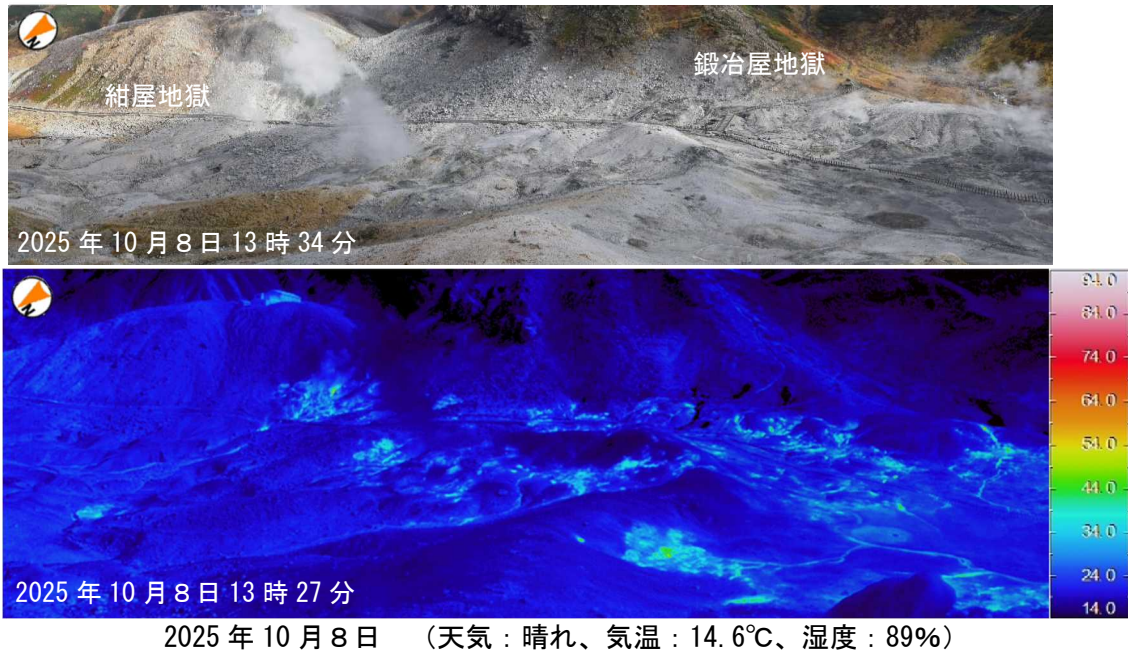
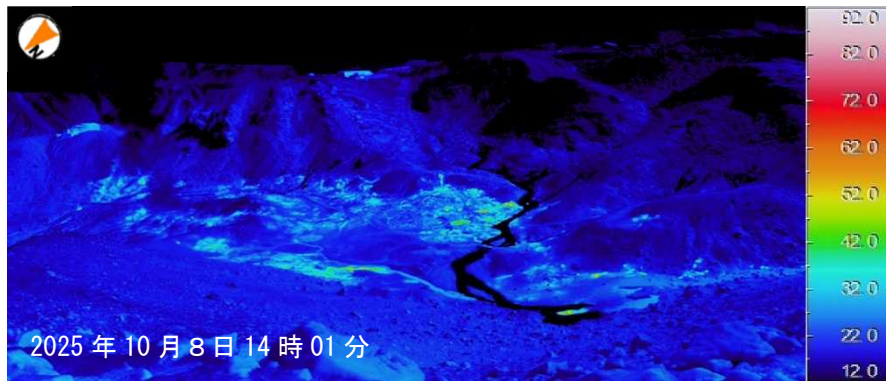
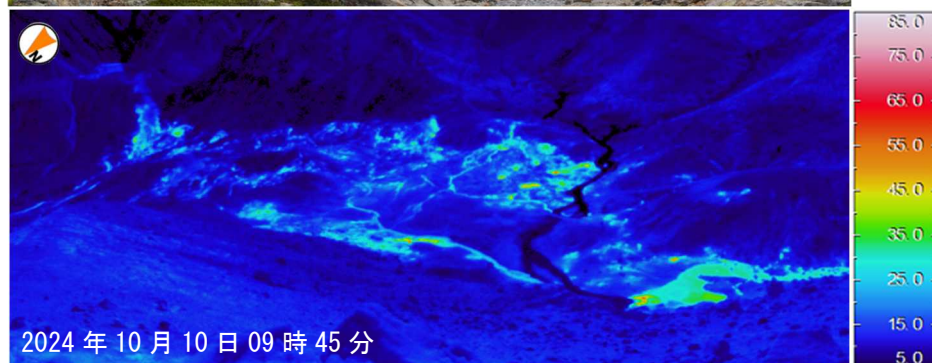


図2-2 弥陀ヶ原 地獄谷（紺屋地獄及び鍛冶屋地獄）の状況

- ・前回（2024年10月）の観測結果と比較して、高温領域の分布に目立った変化は認められませんでした。



2025年10月8日（天気：晴れ、気温：16.0℃、湿度：88%）



2024年10月10日（天気：晴れ、気温：8.9℃、湿度：62%）

図2-3 弥陀ヶ原 地獄谷（鍛冶屋地獄及び百姓地獄）の状況

・前回（2024年10月）の観測結果と比較して、高温領域の分布に目立った変化は認められませんでした。

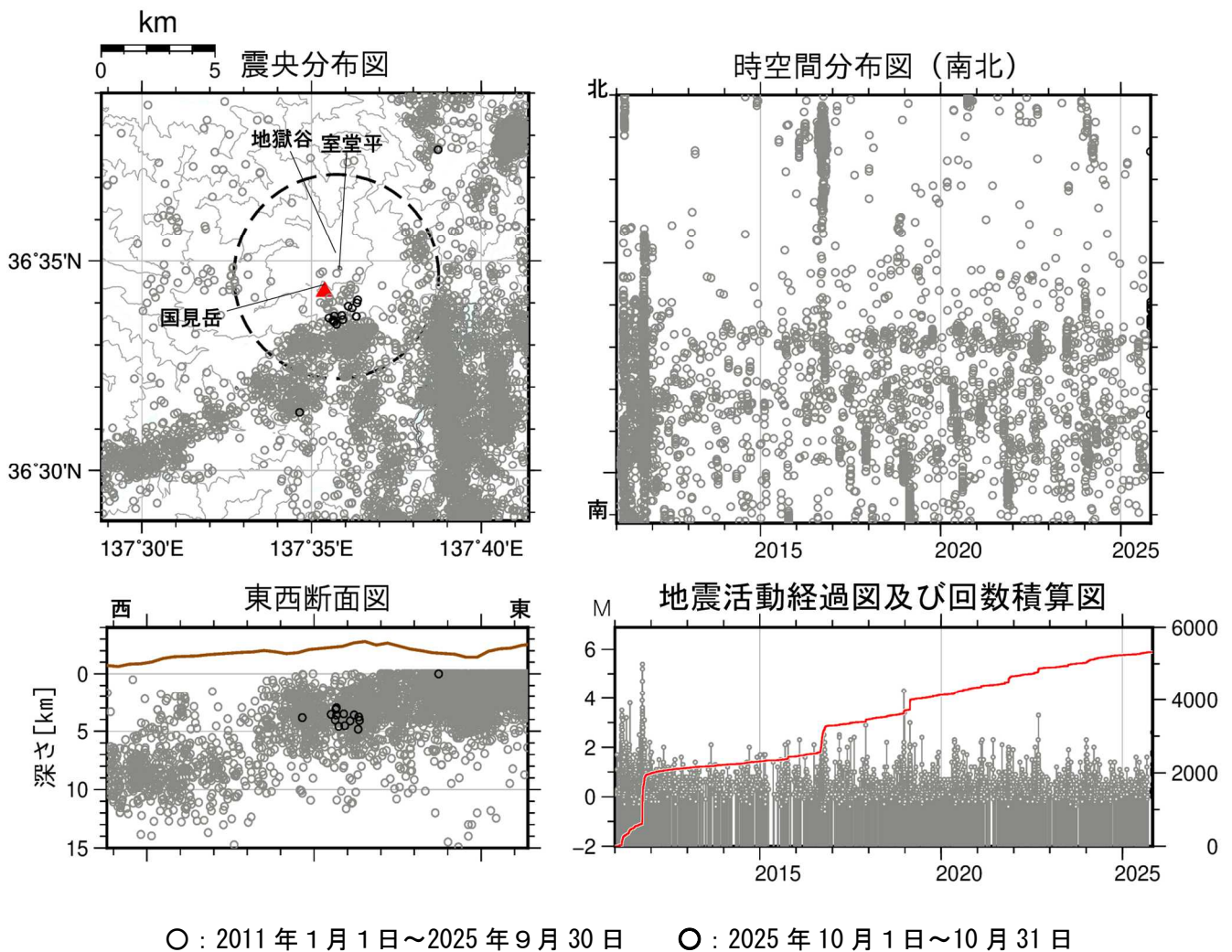


図3 弥陀ヶ原 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011年1月1日～2025年10月31日）
 震央分布図中の円は弥陀ヶ原の計数対象地震（室堂平でS-P時間1秒以内）のおよその範囲を示しています。
 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。なお、2020年9月以降については、地震観測点の標高を考慮する等、震源決定の手法を変更しています。
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

- ・今期間、地獄谷周辺の地震活動は、低調に経過しました。
- ・31日に地獄谷の南3km付近を震源とする地震が一時的に増加しました。この地震活動の前後で、弥陀ヶ原の想定火口域付近浅部での地震活動や噴気活動に特段の変化は認められていません。

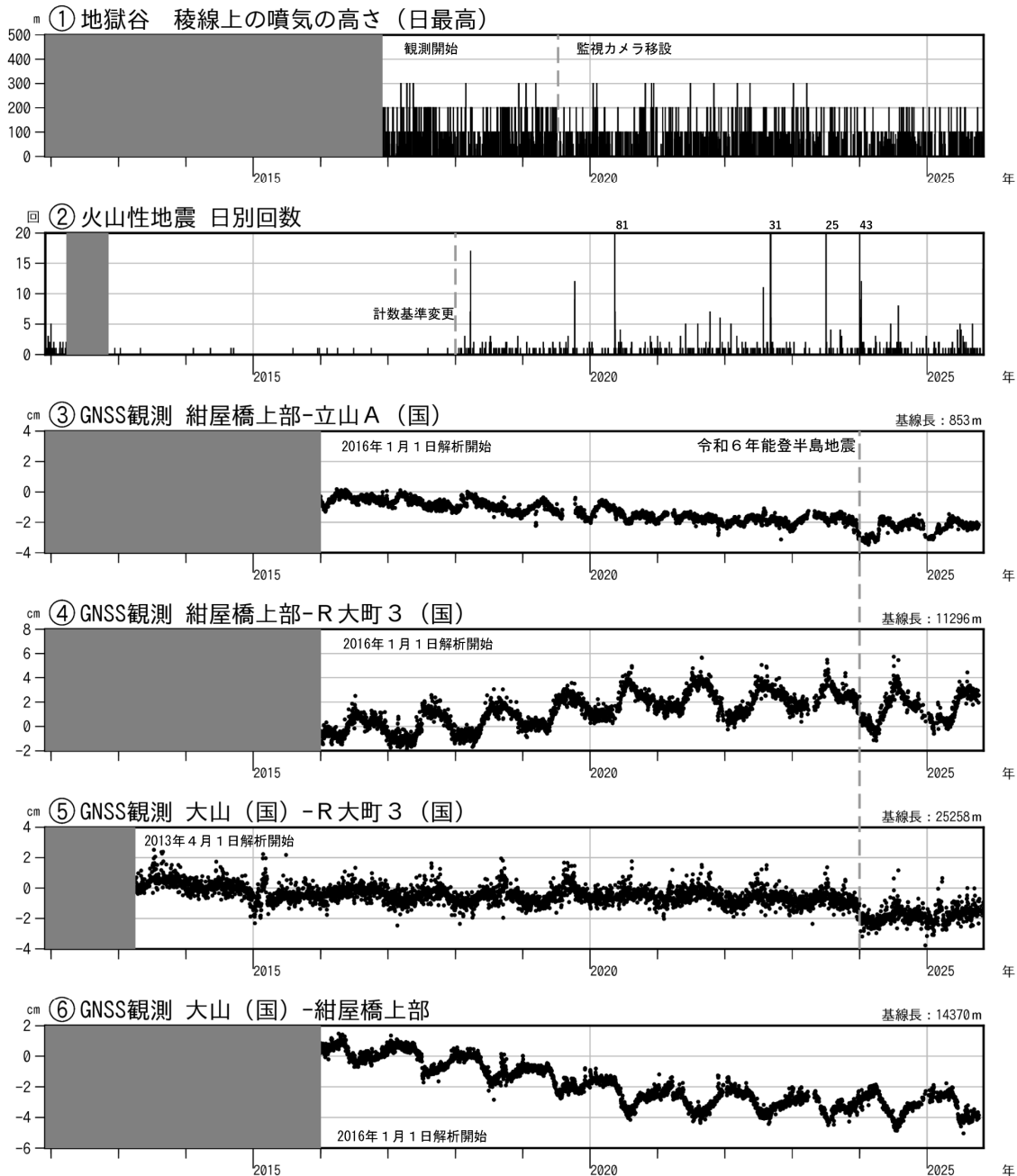


図 4 弥陀ヶ原 火山活動経過図（2011 年 12 月 1 日～2025 年 10 月 31 日）

① 噴気の高さの観測は 2016 年 12 月 1 日開始

* 監視カメラの移設

2019 年 7 月 10 日まで：瀬戸蔵山西監視カメラによる

2019 年 7 月 11 日から：芦峯監視カメラによる

①、③～⑥ 灰色部分は観測・解析開始以前を示しています。

② 灰色部分は機器障害による欠測を示しています。

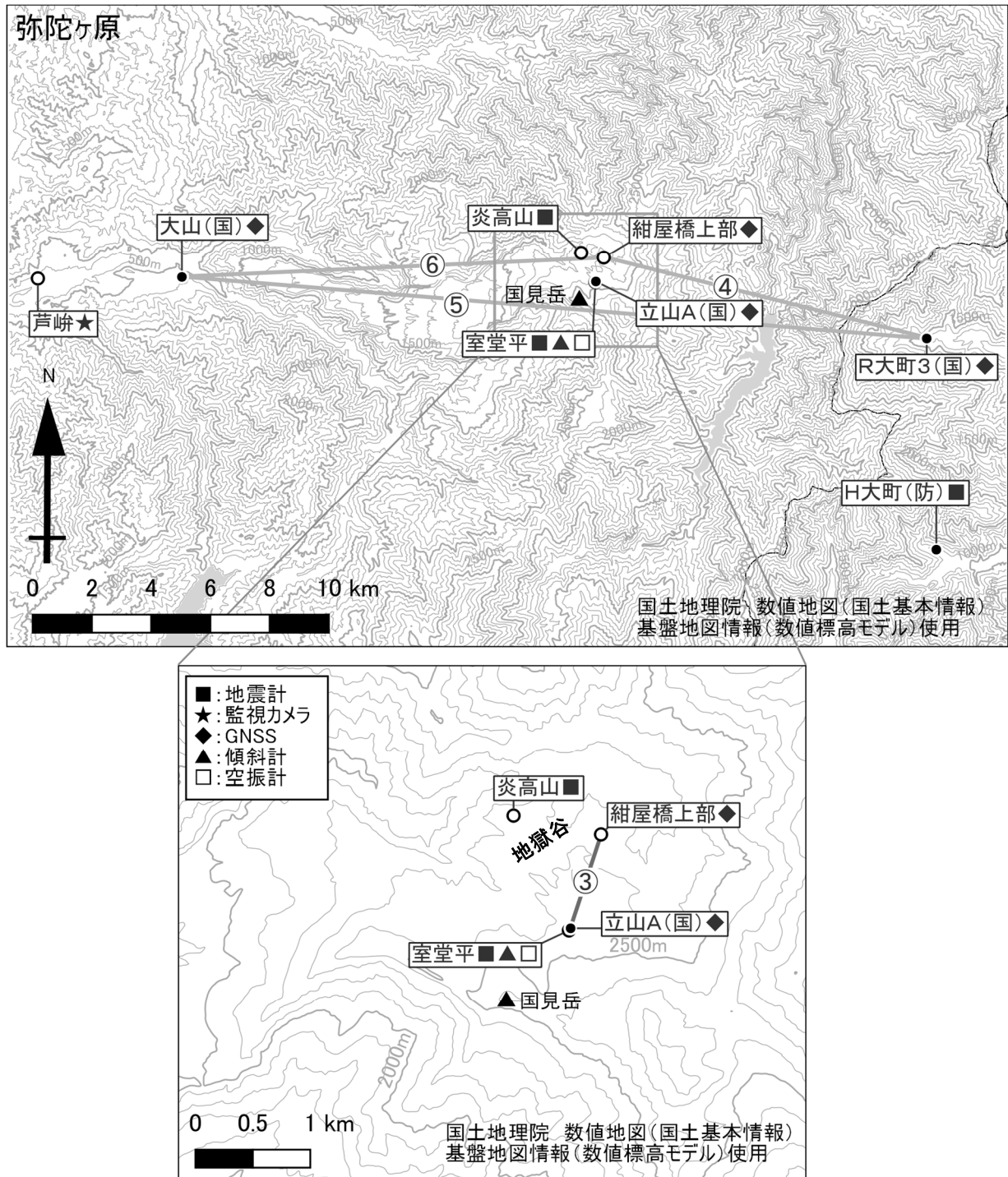
* 火山性地震の計数基準

2017 年 12 月まで：立山室堂 2 の上下動成分で最大振幅 $40 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P 時間 1.0 秒以内

2018 年 1 月から：室堂平の上下動成分で最大振幅 $1 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P 時間 1.0 秒以内

③～⑥ GNSS 連続観測による基線長変化、空白部分は欠測を示します。（国）：国土地理院

- ・地獄谷からの噴気の高さは 200m 以下で経過しました。
- ・31 日に地獄谷の南 3 km 付近を震源とする地震が一時的に増加しました。この地震活動の前後で、弥陀ヶ原の想定火口域付近浅部での地震活動や噴気活動に特段の変化は認められていません。また、2018 年 1 月の計数基準変更以降、時々地震回数の急増が見られますが、いずれも地獄谷から離れた場所で発生した地震によるものです（②）。
- ・GNSS 観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。また、令和 6 年能登半島地震によると考えられる変動がみられます（③～⑤）。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院、（防）：防災科学技術研究所

図5 弥陀ヶ原 観測点配置図

図中のGNSS基線③～⑥は図4の③～⑥にそれぞれ対応しています。